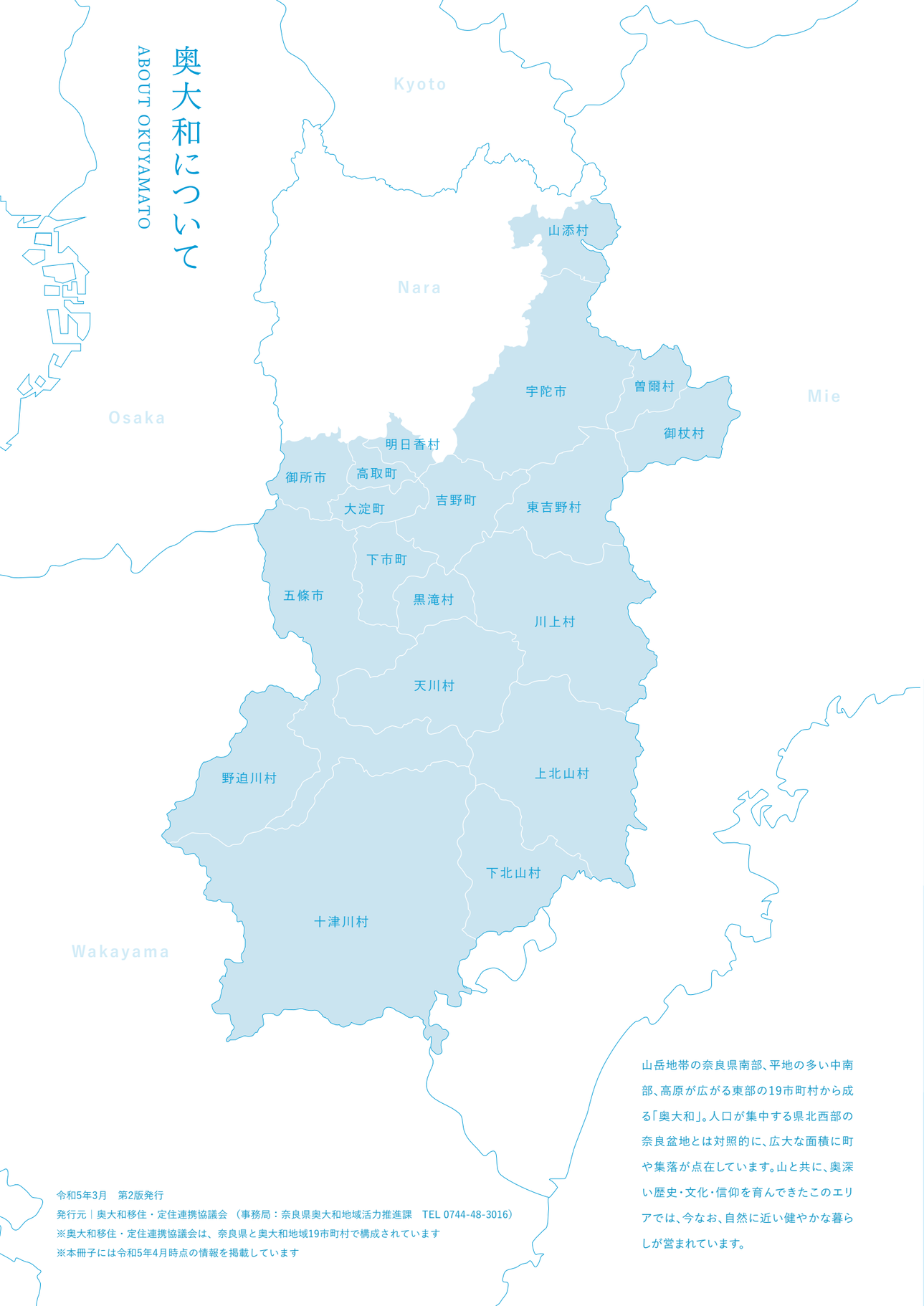
奥大和について

ABOUT OKUYAMATO



山岳地帯の奈良県南部、平地の多い中南部、高原が広がる東部の19市町村から成る「奥大和」。人口が集中する県北西部の奈良盆地とは対照的に、広大な面積に町や集落が点在しています。山と共に、奥深い歴史・文化・信仰を育んできたこのエリアでは、今なお、自然に近い健やかな暮らしが営まれています。

令和5年3月　第2版発行
発行元｜奥大和移住・定住連携協議会 （事務局：奈良県奥大和地域活力推進課　TEL 0744-48-3016）
※奥大和移住・定住連携協議会は、奈良県と奥大和地域19市町村で構成されています
※本冊子には令和5年4月時点の情報を掲載しています

HELLO OKUYAMATO

暮らす奥大和

Contents

01 五條市
02 御所市
03 宇陀市
04 山添村
05 曽爾村
06 御杖村
07 高取町
08 明日香村
09 吉野町
10 大淀町
11 下市町
12 黒滝村
13 天川村
14 野迫川村
15 十津川村
16 下北山村
17 上北山村
18 川上村
19 東吉野村

Gojo City

01

五條市

Data　人口 27,972人（2023年1月時点）　面積 292.02km²

五條市は県中央南西部に位置する南和の中心都市で、西は和歌山県と大阪府に接しています。古くから5つの街道が集まる交通の要衝として繁栄しました。市内には奈良時代の寺院、城下町の情緒が残る町並み、南朝ゆかりの地などの歴史遺産が残ります。また日本一の柿の産地でもあり、丘陵を覆い尽くす2万本の「賀名生梅林」も有名です。

五條新町の町並みは「重要伝統的建造物群保存地区」に指定。市域は南北に長く広範囲に渡ります。北部の駅前に中心街があり、住宅地、工業団地と丘陵に囲まれた田園地帯、南部の山間の果樹栽培地、森林に囲まれた山岳地帯などがあります。

Local resources in Gojo

地域に根差した資源

陀々堂の鬼走り（念佛寺）

毎年1月14日、大津町にある「念佛寺 陀々堂」では室町時代から続けられている火の祭典「鬼走り」が行われ、除災招福を祈願します。3匹の鬼が松明を持って走り回る、国の重要無形民俗文化財。

五條新町通りの町並み

1608年、城づくりに秀でた松倉重政が城下町として建設した町並み。様々な年代を代表する建築様式が残されており、その歴史的景観は「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されています。

幻の五新鉄道

明治以来の念願だった五條～新宮間をつなぐ「五新鉄道」は、昭和14年に着工したものの、未完成のまま昭和57年に工事が中止。幻の路線の歴史を、残された橋桁が伝え続けています。

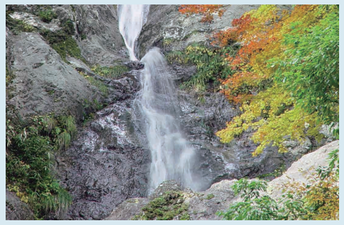
榮山寺

719年、藤原武智麻呂によって創建されたと言われる、藤原南家の菩提寺。境内にある「八角堂」は奈良時代を代表する文化遺産として国宝に指定。梵鐘も「日本三名鐘」のひとつとされています。

吉野川祭り

毎年8月15日に行われる一大イベント。100店ほどの夜店が連なり、約4,000発の花火が上がります。花火文化の礎となった花火師「鍵屋弥兵衛」は、五條市大塔町の出身と言われています。

宮の滝



篠原地区の西方林道沿いにある、落差約40mの3段の滝で、「那智の滝」とは夫婦であると伝えられています。新緑や紅葉の美しさ、厳寒時の凍りついた姿は見応え十分です。

Local industries in Gojo

土地から生まれた産業

農業・畜産業

農業においては、米、果樹、野菜、畜産、花き・花木類などの生産が盛んです。「国営総合農地開発事業」によって柿の一大産地を形成。既設樹園地を含めると、市としては全国一の生産高を誇ります。また、畜産業については奈良県下でトップクラスの飼養頭羽数を数えます。

製造業

住川町の東部に工業団地「テクノパーク・なら」があります。第三次全国総合開発計画に基づく「南和モデル定住圏計画」の中核事業として、雇用の創出、地場産業の振興を図ることを目的に作られました。現在も、機械・金属、製薬、食品、木材、製紙など、30を超える企業の工場が広大な土地に広がっています。

Information

交通 ｜ 電車、路線バス、コミュニティバス
買物 ｜ スーパー、コンビニ
病院 ｜ 総合病院、診療所
学校 ｜ 小学校4校、中学校3校、高等学校3校
移住関連施設 ｜ 移住体験型住宅「平雄」、コワーキングスペース「GOJOチャレンジ」
移住相談窓口 ｜ 企画政策課（0747-22-4001）

気候 ｜ 北部は内陸性気候で比較的温和。南部は山岳性気候で夏季は冷涼、冬季は寒さが厳しい。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪駅」から「五条駅」までJR線で約1時間35分
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城IC」から県道30号線を経て約30分

Gose City

御所市

02

Data　人口 24,029人（2023年1月時点）　面積 60.58km²

御所市は奈良県の大和平野の西南部にあります。古くは大和政権を支えた豪族・葛城氏の本拠地であり、西側に峰を連ねる「金剛山」「葛城山」のふもとの高台は、当時から神々を祀る聖地だったと考えられています。由緒ある神社が多く、ロープウェイが通る葛城山上は、ツツジやススキでも有名です。

JR「御所駅」周辺には、町家が連なる江戸時代の町並みや住宅地があります。平野の農村地にも駅があるので、比較的便利な立地。中心地から車で20分ほど行けば、山間に広がる農村地もあります。現在もお祭りが盛んで、地域のつながりが豊かに育まれています。

Local resources in Gose

地域に根差した資源

神社仏閣

『古事記』や『日本書紀』にも登場し、一言だけ願いを叶えてくれると言われる「葛城一言主神社」、全国鴨社の総本社である「高鴨神社」など、霊験あらたかな神社仏閣が数多くあります。

お祭り

夏と秋には「鴨都波神社」でススキ提灯が奉納され、役行者の生誕地と伝わる「吉祥草寺」では、毎年1月に約6mの松明を燃やす「茅原のトンド」が行われます。共に県指定無形民俗文化財。

山

古くより信仰の対象とされてきた「金剛山」と「葛城山」。現在は観光の名所としても知られています。春の葛城高原に広がるツツジ、秋のススキなどを求めて毎年多くの人が訪れます。

町並み

江戸時代、陣屋町として栄えた「御所まち」には菜種油や薬種、醸造、旅籠など様々な商売が栄えました。今も当時の面影のまま、町家が軒を連ねる町並みが広く残されています。

葛城古道

金剛山と葛城山の山裾を南北に走る古道を「葛城古道」と言います。のどかな田園風景の中に、由緒ある神社仏閣や葛城王朝以来の史跡、農耕文化の跡が残されています。

かもきみの湯

葛城の山々のふもとに湧き出る温泉で、泉質は、ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物温泉。石風呂、薬湯、炭風呂など、多種類のお風呂があります。併設する食事処の利用のみも可。

Local industries in Gose

土地から生まれた産業

製薬業

古来より、御所周辺は植生が豊かな土地で、薬草がよく取れたことから、製薬業が発達していきました。現在も数多くの製薬会社が御所市内で商売を行なっています。

農業

金剛山麓のきれいな水と水はけの良い土壌で作られるお米、完全甘柿のルーツとされる御所柿、大和伝統野菜のひとつ御所いも（大和いも）などが生産されています。

製造業

冷たい空気と水で仕上げる吉野本葛、今なお杉の木桶で仕込む醤油、3つの酒蔵で作られる日本酒。そのほかにもサンダルや春雨など、様々な製造業が営まれています。

Information

交通 ｜ 電車、路線バス、コミュニティバス
買物 ｜ スーパー、コンビニ
病院 ｜ 総合病院、診療所
学校 ｜ 小学校7校、中学校4校
移住関連施設 ｜ 民泊「古民家の宿　勝右衛門」、民泊「母屋森本」、民泊「さんろくのおうち」
移住相談窓口 ｜ 地域活性推進室（0745-44-3641）

気候 ｜ 内陸性気候。夏季は蒸し暑く、冬季は寒い盆地性気候。冬季、金剛山より「金剛おろし」が吹く。

大阪からのアクセス ｜
（電車の場合）
・「大阪阿倍野橋駅」から「御所駅」まで近鉄線で約45分
・「大阪駅」から「御所駅」までJR線で約1時間25分
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城IC」から京奈和自動車道「御所IC」を経て約20分

Uda City

03

宇陀市

Data　人口 27,937人（2023年1月時点）　面積 247.5km²

奈良の北東部、「大和高原」と呼ばれる高原地帯に宇陀市はあります。「宇陀」という名称は、『古事記』『日本書紀』にも記載が見られ、神武伝承の舞台としても知られています。城下町から商家町へと発展した歴史と文化が残る重要伝統的建造物群保存地区「宇陀松山」や、女人高野として知られる「室生寺」などが、観光地として特に有名です。

寒さが厳しい一方、夏は涼しく過ごしやすく、気候風土を活かした農業が盛ん。近年では薬草を活用したまちづくりが行われています。「榛原駅」周辺に開発された住宅地や、榛原・菟田野地区の農村地、室生地区の山間地、大宇陀地区の町家など、様々な暮らし方が選べます。

Local resources in Uda

地域に根差した資源

室生寺

奈良時代創建。「高野山」が女人禁制だった時代に女性の参拝を認めた、「女人高野」として知られる寺院です。国宝「釈迦如来立像」をはじめ、重要文化財級の仏像・寺宝を数多く所蔵しています。

宇太水分神社（みくまり）

水の信仰を伝える大和四水分神社のひとつ。鎌倉時代建立の社殿は国宝に指定。千年以上続く秋の大祭では、神輿を担いで「お渡り」を行い、太鼓台が加わって、水配りと五穀豊穣を祝います。

又兵衛桜

大宇陀にある巨大な枝垂れ桜。樹齢300年とも言われ、高さは13mにもなります。戦国武将・後藤又兵衛が僧侶となり、この地で生涯を終えたという伝説にちなんで、「又兵衛桜」と呼ばれています。

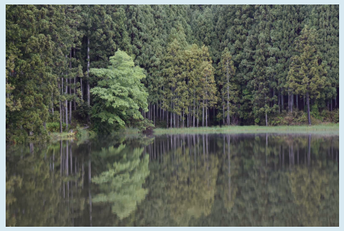
室生山上公園芸術の森

村出身の彫刻家・井上武吉氏の着想をもとに、環境造形家のダニ・カラヴァン氏が手掛けた公園。太陽の光・木・草・水・風などを素材とし、周辺環境と調和した空間全体が彫刻作品となっています。

仏隆寺

平安時代、空海の高弟・堅恵によって創建。唐から茶種と茶臼を持ち帰って寺内に茶園をつくったことから、大和茶の発祥地としても知られます。樹齢900年を超える千年桜や秋の彼岸花も人気です。

龍王ヶ淵



別名「大和富士」と呼ばれる「額井岳」の中腹にある神秘的な池。古くから暮らしを支えた水源として信仰の対象とされ、守られてきた場所です。近くには「豊玉姫命」が祀られる「堀越神社」もあります。

Local industries in Uda

土地から生まれた産業

毛皮革業

菟田野では、古くから毛皮や革製品の製造が行われてきました。鹿革の出荷高は全国シェアの95%以上を誇ります。

林業

木材メーカーによる銘木生産や、森林組合による森林の整備・管理・人材育成などが行われています。

農業

開けた土壌、恵まれた気候を活かした農業が盛んです。有機無農薬野菜を作る事業者も多数あります。

製造業

吉野葛・日本酒・クラフトビール・牛肉・醤油など、土地の資源を活かした製造業が数多く営まれています。

Information

交通 ｜ 電車、路線バス、コミュニティバス
買物 ｜ スーパー、コンビニ、商店、農産物直売所
病院 ｜ 総合病院、診療所
学校 ｜ 小学校6校、中学校4校、高校1校
移住関連施設 ｜ 奈良カエデの郷「ひらら」、移住体験施設
移住相談窓口 ｜ 政策推進課（0745-82-8000）

気候 ｜ 内陸性気候。大和高原に属し、夏季は冷涼、冬季は寒さが厳しい。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪難波駅」から「榛原駅」まで近鉄線で約1時間
（車の場合）
・名阪国道「針IC」から国道369号線を経て約45分

Yamazoe Village

04

山添村

Data　人口 3,216人（2023年1月時点）　面積 66.52km²

山添村は奈良の中でも北東の端に位置する高原の村です。人が住み着いたのは縄文時代で、日本最古級の遺跡が出土した布目川流域など、村内のあちこちから、住居跡や土器・石器が出土。数多く磐座が点在することから巨石の聖地とも呼ばれ、太古の信仰に触れようと、多くの観光客が訪れています。

標高は120m～620mと起伏はあるものの、傾斜は全体的になだらか。村の80%が山林で、村内を流れる川や道などに沿って集落と農地が点在します。かつては県内唯一の「和紅茶」の産地でもあり、旧保育園の跡地を利用したお茶の体験施設を通じて、「和紅茶」の復活にも取り組んでいます。

Local resources in Yamazoe

地域に根差した資源

磐座（いわくら）

磐座は、「神はすべての自然物に宿る」と考えていた古代の人々が作った祈りの対象物であり、神々が降りてくる場所のこと。村内には巨石をご神体とした神社など、祈りの場が数多く存在しています。

神野山（こうのやま）（神野山自然公園）

標高618.8m。県立自然公園に指定される村のシンボルで、山頂からは周囲を一望できます。春のツツジ、森林科学館、天狗伝説がある巨石群「鍋倉渓」など、観光と信仰が共存するスポットです。

めえめえ牧場

「フォレストパーク神野山」の中にある牧場で、50頭ほどの愛らしい羊たちが迎えてくれます。期間限定で羊の毛刈りが体験でき、隣接する羊毛館では、染めたり紡いだり、羊毛加工も楽しめます。

申（さる）祭り

春日神社で12月に行われる「申祭り」では、「菅生春楽社」により能や狂言が奉納されます。明治時代、元能楽師であった金春万次郎氏から地域の人が習い始め、座を結成したことが始まりです。

カントリーパーク大川

縄文時代の「大川遺跡」を整備した公園。復元されたたて穴式住居やパネル展示で、縄文の生活を楽しみながら学べます。キャンプ場・バーベキューサイト・巨大すべり台などもあります。

かすががーでん

2013年、廃園になった保育園を活用して生まれた都市と農村の交流拠点。村と地元スタッフが協力して運営しています。茶摘みや茶揉み、野菜の種植えや収穫、調理などを体験できます。

Local industries in Yamazoe

土地から生まれた産業

農業

標高が高く昼夜の温度差が大きいこと、山や川から発生する霧がお茶の生育に良いことなどから、古くからお茶の生産が盛んです。傾斜がなだらかで、比較的日当たりも良く、米作りはもちろん、大和伝統野菜の片平あかねやしいたけ、里芋などの生産も行われています。

製造業

収穫されたお茶の葉を加工し、茶粥、茶そうめんなどを生産。新たな可能性にチャレンジしています。

飲食業

動物園のあるカフェやブックカフェなど、地元の食材を活かした飲食業が営まれています。

Information

交通｜路線バス、コミュニティバス
買物｜商店、農産物直売所
病院｜診療所、歯科医院
学校｜小学校1校、中学校1校、高等学校（分校）1校
移住関連施設｜交流体験施設「かすがーでん」
移住相談窓口｜地域振興課（0743-85-0048）

気候｜内陸性気候。大和高原に属し、夏季は冷涼、冬季は寒さが厳しい。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪駅」から「天理駅」までJR線で約1時間15分
・「大阪難波駅」から「天理駅」まで近鉄線で約1時間
・「天理駅」からバスで「国道山添」まで約1時間10分
（車の場合）
・名阪国道「山添IC」から県道80号線を経て約1分

Soni Village

05

曽爾村

Data　人口 1,321人（2023年1月時点）　面積 47.76km²

曽爾村は奈良の北東部、三重との県境にあります。村の大半を占める山地は室生火山郡に属し、岩肌があらわな「鎧岳」「兜岳」「屏風岩」などの奇岩奇峰の山々は国の天然記念物に指定。ススキの名所として名を馳せる「曽爾高原」一帯は、「室生赤目青山国定公園」に指定されています。

曽爾川に沿って主な集落が広がり、山の斜面にいくつか集落が点在。周囲を1,000m級の山々に囲まれながらも、平地で日当たりのいい場所も多く、高原の冷涼な気候や湧き水を活かした農業も盛んです。漆塗りに関する伝説から「ぬるべの郷」としての地域おこしを行っています。

Local resources in Soni

地域に根差した資源

曽爾高原

「日本三百名山」に数えられる「倶留尊山」から亀山を結ぶ山麓に広がる、一面をススキに覆われた草原です。早春の頃に行われる山焼きは迫力満点。星空のスポットとしても知られています。

鎧岳・兜岳

激しい火山活動と長期の浸食で今の姿になった「鎧岳（894m）」と「兜岳（920m）」。鎧岳は“雄岳”、兜岳は“女岳”と呼ばれ、国の天然記念物に指定。遊歩道が整備され、多くのハイカーが訪れます。

獅子舞

約300年に渡って受け継がれる獅子舞。毎年、村内にある全神社の秋祭りの日、古社「門僕神社」で奉納します。舞の種類の豊富さと質の高さが評価され、県の無形民俗文化財に指定されています。

屏風岩公苑

その名の通り、屏風を立てたように隆起した高さ約200mの岩壁が、幅2kmに渡ってそびえています。春になると、ミツバツツジが岸壁を彩り、樹齢100年を超える山桜が咲き乱れます。

曽爾高原湧水群

「曽爾高原」のお亀池に蓄えられた伏流水や、周辺から湧き出る水は「平成の名水百選」にも選ばれる名水。生活の飲料水としてはもちろん、米やビールの生産にも使われています。

曽爾高原温泉 お亀の湯

泉質はナトリウム-炭酸水素塩温泉で、“美人の湯”と評判の温泉施設。「木の浴室」からは「兜岳」や「鎧岳」を一望でき、「石の浴室」からは「曽爾高原」が望めます。食堂や休憩所もあります。

Local industries in Soni

土地から生まれた産業

農林業

高い標高と寒暖差を活かした農業が行われています。特に、「曽爾高原」の湧水を使った曽爾米、ほうれん草、トマト栽培などが盛んです。また、森林組合を中心に、定期市を開催して木材の需要促進を図るなど、林業振興にも取り組んでいます。2016年には、農産物のブランド化や木材加工による付加価値創造などに取り組む官民共同組織「曽爾村農林業公社」を設立。地域イノベーションによる創業を支援しながら、持続可能な農林業の実現を目指してプロジェクトを進めています。

観光業

飲食店やお土産店のある観光拠点「曽爾高原ファームガーデン」や「お亀の湯」を中心とした観光業も活発です。民宿やゲストハウスもあり、農家民泊も行われています。

Information

交通｜路線バス、コミュニティバス
買物｜商店、農産物直売所
病院｜診療所
学校｜小中学校1校
移住関連施設｜移住体験施設「ソニゲイト山粕宿」
移住相談窓口｜企画課（0745-94-2116）

気候｜内陸性気候。大和高原に属し、夏季は冷涼、冬季は寒さが厳しい。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪難波駅」から「名張駅」まで近鉄線で約1時間15分
・「名張駅」からバスで「今井」まで約45分
（車の場合）
・名阪国道「針IC」から国道369号線を経て約40分

Mitsue Village

06

御杖村

Data　人口 1,449人（2023年1月時点）　面積 79.63km²

三重県との県境、奈良の東端にあり、「室生赤目青山国定公園」に指定される雄大な山々に囲まれた山間の村です。古くから東海・中部地方と近畿地方を結ぶ要衝とされ、「伊勢本街道」が発達。江戸時代には宿場町として賑わいました。街道沿いには今も旅籠の面影を残す建物や道標があります。

平地、山間、川沿いに広く集落が点在しています。冷涼な気候を活かして、米作りやほうれん草栽培などが盛ん。「日本三百名山」のひとつに数えられる「三峰山」、道の駅に併設した温泉施設、旧校舎を活用した宿泊施設や体験交流館などを中心とした観光事業にも取り組んでいます。

Local resources in Mitsue

地域に根差した資源

御杖神社

天照大神を奉じる候補地を探していた「倭姫命」が村を訪れた際、杖を残したと伝わる神社。現在もその杖を祀り、拝殿の両脇には樹齢600年を超える御神木がそびえています。

三峰山（みうねやま）の霧氷

「日本三百名山」のひとつ「三峰山」の山頂付近では、厳冬期に空気中の水分が木々の枝に付着して凍りつく「霧氷」が見られます。1〜3月には、幻想的な自然の風景を求めて登山客が訪れます。

姫石の湯（道の駅）

「姫石の湯」は、道の駅「伊勢本街道　御杖」の中にある天然温泉施設で、周囲の山々を眺めながら入浴できます。広さ80畳の大広間やお食事処も。観光案内所や農産物直売所も併設されています。

半夏生（はんげしょう）園

岡田と呼ばれる谷に、「半夏生」がおよそ3,000m²に渡って群生。見頃の7月になると葉の一番上の数枚が白く色づき、緑の上に白い絨毯を敷いたような光景が広がります。

みつえ青少年旅行村

三峰山のふもとにあるキャンプ場です。全長140mのジャンボローラーすべり台、アスレチックなどの遊具も充実。池ではあまごつかみ、釣り堀では魚釣りもできます。宿泊はもちろん日帰り利用も可。

みつえ体験交流館

小学校だった木造校舎を活用した施設。竹細工やこんにゃくなどを手作りする体験ができます。毎年10月には、101mの長い廊下を活かした「雑巾ダッシュ」というイベントも行われています。

Local industries in Mitsue

土地から生まれた産業

農業

気候の寒暖差を活かして、ほうれん草やトマト、自然薯、水菜、春菊などが栽培されています。また、「農業次世代人材投資資金」など、農業に関する様々な支援も行われています。

林業

「御杖村森林組合」では、杉や檜の間伐といった森林整備、山の所有者の経営相談、切り出した木を木材へ加工して販売するなどの事業を行っています。

観光業

季節によって姿を変える「三峰山」、桜や半夏生など四季を彩る草花、美しい清流や壮大な滝、温泉施設やキャンプ場など、村をあげて自然を活かした観光事業が進められています。

Information

交通 ｜ 路線バス、コミュニティバス
買物 ｜ 商店、農産物直売所
病院 ｜ 診療所
学校 ｜ 小学校1校、中学校1校
移住関連施設 ｜ 御杖村移住体験住宅
移住相談窓口 ｜ むらづくり振興課（0745-95-2001）

気候 ｜ 内陸性気候。大和高原に属し、夏季は冷涼、冬季は寒さが厳しい。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪難波駅」から「榛原駅」まで近鉄線で約1時間
・「榛原駅」からバスで「掛西口」まで約50分
（車の場合）
・名阪国道「針IC」から国道369号線を経て約60分

Takatori Town

07

高取町

Data　人口 6,287人（2023年1月時点）　面積 25.79km²

高取町は、奈良県中南部に位置する町。古くは飛鳥時代、推古天皇が「薬狩り」をし、中世・南北朝時代には豪族・越智氏が治めた場所でした。江戸時代に高取城の城下町として栄えた土佐街道には、今も当時の面影を見ることができます。明治29年に、高取町・船倉村・越智岡村の3つの地域が「和になる」ことで、今の高取町になりました。

壺阪山駅周辺には、江戸時代の町並みが残る土佐街道や住宅地があります。北部・西部の平地に集落が広がり、南部・吉野に近づくにつれて山間地となります。お城や街道、薬の町というイメージのまちづくりに加え、北部の農村地にある与楽古墳群周辺の整備・開発も進めています。

Local resources in Takatori

地域に根差した資源

高取城跡

「日本最強の城」との呼び声も高い、「高取城」の城跡です。南北朝時代に越智氏によって築かれました。「日本三大山城」のひとつとして、今も新緑や紅葉の季節には多くの人が訪れます。

壺阪寺

創建703年。眼病封じの信仰を集めるお寺です。本尊は「十一面千手観世音菩薩像」で、山中に広がる境内には、仁王門や三重塔のほか、インドから招来された高さ20mの大観音像などがあります。

土佐街道

大和朝廷の都造りのために集められた土佐出身者たちが住み着いたと言われる「土佐町」。メインストリートである「土佐街道」は、「高取城」の城下町として栄え、今も様々な商いが行われています。

市尾墓山古墳

墳丘の全長が約70m、高さが約9mある、6世紀初めの前方後円墳です。国史跡に指定され、古墳の規模や石棺、出土遺物から、古代の有力な豪族の墓と考えられています。

町家の雛めぐり

ボランティア団体を中心に、2007年から始まった3月の雛祭りイベント。「土佐街道」沿いの80軒を越す町家で各家庭の雛人形が飾られ、一ヶ月の間に、実に約5万人が訪れます。

石造物

「猿石」「人頭石」と呼ばれる石造物があります。斉明天皇期に作られたと言われるも、詳細は不明。猿石は「高取城の石垣に使うために飛鳥から運ばれてきた」「結界石である」など、諸説あります。

Local industries in Takatori

土地から生まれた産業

製薬業

江戸時代には伊勢街道沿いで売薬が始められ、「大和の薬売り」として親しまれました。その歴史と伝統を継ぎ、今も町内では製薬産業が営まれています。

農業

農業生産法人を中心に伝統的な薬草・大和当帰やいちご、米、そのほか様々な野菜が作られています。毎年一回、農産物品評会も開かれています。

観光業

社団法人が運営する観光案内所「夢創舘」や、ゲストハウスなどがあります。また、毎年秋には、1万人以上が訪れる「城まつり」を開催しています。

Information

交通 ｜ 電車、路線バス
買物 ｜ スーパー、コンビニ
病院 ｜ 診療所
学校 ｜ 小学校1校、中学校1校、高等学校1校
移住関連施設 ｜ なし
移住相談窓口 ｜ まちづくり課（0744-52-3334）

気候 ｜ 内陸性気候。夏季は蒸し暑く、冬季は寒い盆地性気候。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪阿倍野橋駅」から「壺阪山駅」まで近鉄線で約45分
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城IC」から国道169号線を経て約30分

Asuka Village

08

明日香村

Data　人口 5,267人（2023年1月時点）　面積 24.1km²

明日香村は県の中央やや北寄りにあります。飛鳥時代に都が築かれ、律令国家体制、「天皇」という称号や「日本」という国号がこの地で生まれました。今でも村内では発掘調査が行われ、その都度、新たな歴史が明らかにされています。歴史文化、自然、風景などの資源を五感で楽しむ「明日香まるごと博物館構想」をもとに、村づくりが進められています。

「飛鳥宮跡」などが広がる「歴史ゾーン」、「高松塚古墳」などが点在する「古墳ゾーン」、棚田など自然が息づく「自然ゾーン」の3つの地域の中で、のどかな田園風景と農村集落が広がり、岡寺参道など古い町並みや新しい住宅地が点在しています。村全域が「明日香法」「古都法」の対象地域であり、人々の生活と歴史的風土保存の調和が図られています。

Local resources in Asuka

地域に根差した資源

国営飛鳥歴史公園

豊かな自然と深い歴史を感じてもらうことを目的として、「高松塚地区」「石舞台地区」「甘樫丘地区」「祝土地区」「キトラ地区」それぞれの特色を活かした5地区の国営公園が整備されています。

文化財

蘇我馬子の墓とされる「石舞台古墳」、「大化の改新」の舞台とされる「飛鳥宮跡」、飛鳥美人や四神などの極彩色壁画（国宝）のある「高松塚古墳」「キトラ古墳」など、多くの文化財があります。

神社仏閣

蘇我馬子によって創建された日本初の本格的寺院「飛鳥寺」や厄除け霊場「岡寺」、聖徳太子の生誕地と伝わる「橘寺」、子授かりにご利益があるとされる「飛鳥坐神社」など多くの寺社があります。

伝統行事

「飛鳥坐神社」で行われる、奇祭として有名な「おんだ祭り」や、奥明日香で行われる「男綱」「女綱」を掛け替える「綱かけ」など、子孫繁栄・五穀豊穣を祈る様々な伝統行事が受け継がれています。

農産物直売所

村内に3つの農産物直売所があります。朝から地元の農家の方々が作った旬の野菜や果物などが所狭しと棚に並べられ、村内外からたくさんの人が買いに訪れます。

観光農園

地域のいちご農家の方々と「明日香村地域振興公社」が協力して、1月～5月末まで観光農園「いちご狩りパーク」を開園。そのほか、みかん狩りやぶどう狩りができる農園もあります。

Local industries in Asuka

土地から生まれた産業

農業

稲渕の棚田は「日本の棚田百選」にも選ばれる景勝地。野菜や果樹の栽培も盛んで、若手農家が集まって開く「明日香ビオマルシェ」も毎週行われています。

観光業

飛鳥の歴史的風土を活かし、農家民泊の体験旅行が人気。国営公園や歴史資料館なども複数あり、レンタサイクルや道の駅も整備されています。

飲食・宿泊業

年間約80万人という観光客が訪れるため、40を超える飲食店があります。昔ながらの民宿、ゲストハウスやペンションなど宿泊業も営まれています。

Information

交通 ｜ 電車、路線バス、デマンド交通
買物 ｜ 農産物直売所、コンビニ、商店
病院 ｜ 診療所
学校 ｜ 小学校1校、中学校1校
移住関連施設 ｜ なし
移住相談窓口 ｜ 総合政策課（0744-54-2001）
seisaku@tobutori-asuka.jp

気候 ｜ 内陸性気候。夏季は蒸し暑く、冬季は寒い盆地性気候。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪阿倍野橋駅」から「飛鳥駅」まで近鉄線で約40分
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城IC」から国道169号線を経て約25分

Yoshino Town

09

吉野町

Data　人口 6,223人（2023年1月時点）　面積 95.65km²

吉野町は県の中央、やや北寄りに位置し、町域の一部は「吉野熊野国立公園」に指定。吉野は『古事記』や『日本書紀』にも登場し、大海人皇子が「壬申の乱」前に身を潜めたのも、源義経が兄・頼朝に追われて逃げてきたのも吉野でした。古くから修験の地であり、桜の名所である吉野山、「吉野林業」の集積地として全国に木材を供給してきた「吉野貯木」など、様々な顔を持った町です。

一大観光地・吉野山。伊勢街道筋にあり、今も古い町家が残る「上市」。紙漉きや割り箸などものづくりが盛んな「国栖」など、吉野川の上流に向かって川沿いに広がる集落。山間に農村が広がる「龍門」。色々な土地で暮らしが営まれています。

Local resources in Yoshino

地域に根差した資源

吉野山

有数の桜の名所として知られ、春には3万本とも言われるシロヤマザクラが咲き乱れます。2004年に世界遺産にも登録され、「金峯山寺」や「吉野水分神社」など、歴史深い寺社なども多数あります。

金峯山寺（きんぷせん）

役行者によって開かれた修験道の総本山です。「蔵王堂」は「東大寺大仏殿」に次ぐ木造大建築で、国宝に指定。期間限定でご開帳される秘仏「金剛蔵王権現」は高さが約7mあり、圧巻の迫力です。

金峯山寺 蓮華会・蛙飛び

毎年7月7日、「金峯山寺」で行われる伝統行事。「蓮華会」と共に行われる「蛙飛び行事」は、大青ガエルの太鼓台が町内を練り歩き、「蔵王堂」の前で人間に戻されるという奇祭です。

吉野川

町の中央を流れる川で、大台ヶ原を水源とします。川には昭和3年に完成した吉野川橋梁が架かり、夕陽を背に橋をゆっくりと渡る列車の姿を写真に収めようと、多くのカメラマンが訪れています。

吉野貯木

「吉野貯木」は、昭和初期に整備された製材工業団地の総称。吉野川に作られた水中貯木場にちなんで、こう呼ばれました。現在も製材所が立ち並び、原木市が行われる、木の専門店街です。

吉野水分神社（みくまり）

古来より、水を司どる「天之水分大神」を祀った神社です。子授かりにも御利益あると信仰され、“子守さん”と呼ばれることも。社殿は1604年に豊臣秀頼が再建したもの。

Local industries in Yoshino

土地から生まれた産業

林業・製材業

現在も「吉野林業」の特徴である密植・多間伐・長伐期のサイクルで杉や檜を育て、切り出し、貯木で製材した木材を「吉野材ブランド」として全国に出荷。集約的な施業が維持される一方、自伐型林業の施業者を増やす取り組みも行われています。

製箸業

建築用に製材された木の端材を使って割り箸を生産する、製箸業が現在も営まれています。

製紙業（手漉き和紙）

大海人皇子によって伝えられたと言われる吉野手漉き和紙は、昔ながらの手作業で作られ、国の「選定保存技術」に指定されている紙もあります。

Information

交通 ｜ 電車、路線バス、コミュニティバス
買物 ｜ スーパー、コンビニ
病院 ｜ 総合病院、診療所
学校 ｜ 小学校2校、中学校1校、高等学校1校
移住関連施設 ｜ 吉野町上市移住・定住・促進支援センター、ゲストハウス「三奇楼」
移住相談窓口 ｜ 協働のまち推進課（0746-32-3081）

気候 ｜ 内陸性気候で比較的温和。山間部は山岳性気候で夏季は冷涼、冬季は寒さが厳しい。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪阿倍野橋駅」から「大和上市駅」まで近鉄線で約1時間10分
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城IC」から国道169号線を経て約45分

Oyodo Town

10

大淀町

Data　人口 16,402人（2023年1月時点）　面積 38.10km²

大淀町は奈良県の中西部に位置する町。修験者、歌人、旅人など、古くから人々が往来し、吉野の玄関口として栄えたこの町には、聖徳太子が建立したとされる寺院や、能のルーツである「猿楽」にゆかりの深い神社があり、100年以上の歴史がある「大阿太高原」の梨も有名です。年間60万人が訪れる人気の道の駅もあります。

南に吉野川や吉野山群を望み、奈良と吉野に挟まれるようにあるこの町には大規模ニュータウンが3つ点在し、その間を縫うように農村・丘陵地が広がっています。ニュータウンに合わせて駅もつくられ、都市部へも電車で一時間ほどで到着。商店も多く、総合病院もありながら、農業も盛ん。自然と利便性が共存する町としての発信を行っています。

Local resources in Oyodo

地域に根差した資源

道の駅 吉野路大淀iセンター

吉野地域の資源である杉を活かし、修験者の額につける「頭巾」をイメージした屋根を持つ観光拠点施設です。吉野エリアの情報コーナーやレストラン、直売所・特産品コーナーなどがあります。

直売所・特産品コーナー（iセンター内）

地元農家で朝一番に採れた野菜をはじめ、果物、花木、お茶や自然薯を使った手作りこんにゃく、一番人気のバナナケーキなど、地域の産品や工芸品が手に入ります。

世尊寺

世界遺産「吉野・大峯」へとつながる修験文化発祥の地です。県の重要文化財に指定される吉野最古の木造彫刻「木造十一面観音立像」や「太子堂」などがあります。

吉野川

日本一の降水量を誇る大台ヶ原を源流とする川。大正8年まであった、対岸の吉野に渡る「柳の渡し」は、歴史的価値が認められ、平成17年に町指定の文化財となりました。

桧垣本猿楽

桧垣本地区には「猿楽」の一座があり、吉野を中心に活躍していた歴史があります。町は、「ちびっこ能楽体験」を行うなど、「桧垣本猿楽」を伝えていく事業を展開しています。

水神祭

毎年7月に行われる、「下渕八幡神社」境内にある水神社の例祭。五穀豊穣を祈りながら、ご神体を祀った神輿と子どもたちが引く「子ども神輿」が、地区内を練り歩きます。

Local industries in Oyodo

土地から生まれた産業

農業

梨、ぶどう、お茶、米など温暖な気候を利用した農業が盛んに行われています。また大淀町は就農支援特区に指定されているため、耕作を目的とした農地を取得しやすくなっています。

工業

吉野地域の玄関口にあるため、隣接する町村の山々から切り出されてきた木を製材する工場や、バイオマス発電の燃料となる木材チップの生産工場などがあります。

商業

知育玩具の製造販売を行う会社、パッケージ会社、製箸業者など、町内には800を超える事業者が商工会に所属。多様な商業が営まれています。

Information

交通｜電車、路線バス、コミュニティバス
買物｜スーパー、コンビニ
病院｜総合病院、診療所
学校｜小学校3校、中学校1校、高等学校1校
移住関連施設｜なし
移住相談窓口｜企画財務課（0747-52-5501）

気候｜内陸性気候。夏季は暑く、冬季は比較的温和。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪阿倍野橋駅」から「下市口駅」まで近鉄線で約1時間10分
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城IC」から国道169号線を経て約35分

Shimoichi Town

11

下市町

Data　人口 4,736人（2023年1月時点）　面積 61.99km²

下市町は県の中央部の西寄りに位置しています。人が住み着いたのは縄文・弥生の頃。平安時代以降は、吉野地方の入り口にあったことから交易が盛んになり、吉野地方の森林資源などを商う市場町として発展しました。江戸時代初期には日本最古の商業手形「下市札」が発行されるほど賑わいました。

町域は南北に広がり、北部を流れる吉野川流域や秋野川下流沿いの低い平地に市街地が形成され、南部の丘陵、山間部には秋野川上流や丹生川沿いなどに集落が点在しています。3つの地区に自治会や移住者が運営するゲストハウスが誕生するなど、移住促進にも積極的に取り組んでいます。

Local resources in Shimoichi

地域に根差した資源

丹生川上神社下社（にうかわかみ）

675年、天武天皇によって創建。水神を祀る神社としては日本最古とされる延喜式内社です。丹生山山頂の本殿に続く木製75段の階段は、6月の例祭の日のみ、一般参拝者も登ることができます。

広橋梅林

「奈良県三大梅林」のひとつで、広橋峠の北側斜面25haに渡って、約5,000本の梅が植えられています。2月下旬から3月下旬が花見頃。散策道が整備されているのでハイキングも楽しめます。

蛭子神社の初市（ひるこ）

商いの神として信仰される「蛭子神社」で、毎年2月12日に行われる、下市町最大のお祭り。400年以上の歴史を誇り、当日は露店商が軒を連ね、多くの参拝客で賑わいます。

下市温泉秋津荘 明水館

清流・秋野川のほとりに佇む山あいの天然温泉。肌に優しい泉質（炭酸水素塩泉）で、露天風呂はもちろんジャグジー風呂も。館内にある「ごんた食堂」では下市産バナメイエビも味わえます。

下市町森林公園 やすらぎ村

大自然の中で、川遊びやバーベキューが楽しめるキャンプ場です。宿泊施設の「やすらぎ荘」をはじめ、マッシュルームキャビンやバンガロー、キャンプサイトなど様々な泊まり方が選べます。

ピザハウスErba

平原地区の自治会が運営する期間限定のピザハウス。地域で栽培したハーブ、野菜、果物を使ったオリジナルのピザをペレット窯で焼いて提供するなど、レシピや素材にもこだわりが詰まっています。

Local industries in Shimoichi

土地から生まれた産業

農業

昼夜の気温差がある地形、赤土の広がる土壌を活かした柿栽培のほか、梅、梨、ぶどう、椎茸、ブルーベリーやハーブなど、様々な農産物が生産され、直売所などで販売しています。

木工業

下市町が発祥とされる割り箸、神具など、伝統的な技術に支えられた木工業が主要産業です。正月の鏡餅や神棚へのお供物を載せる三宝は、全国シェアの80%以上を生産しています。

林業

林業の省力化を目指し、機械化の推進や作業道の整備、後継者の育成などに取り組み、町の森林面積の74%にあたる人工林の間伐、管理を行える体制作りを進めています。

Information

交通｜路線バス
買物｜スーパー、商店、農産物直売所
病院｜診療所
学校｜義務教育学校1校
移住関連施設｜ゲストハウス山桜、ゲストハウス風の谷、ゲストハウスAPRICOT
移住相談窓口｜地域づくり推進課（0747-52-0001）

気候｜北部は内陸性気候で、夏季は暑く冬季は寒冷。山間部は山岳性気候で、夏季は冷涼、冬季は寒さが厳しい。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪阿倍野橋駅」から「下市口駅」まで近鉄線で約1時間10分
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城北IC」から国道309号線を経て約40分

Kurotaki Village

12

黒滝村

Data　人口 626人（2023年1月時点）　面積 47.70km²

黒滝村は県のほぼ中央にあり、「奈良のへそ」と呼ばれています。吉野大峯山系の山麓に位置し、古代、修験道の開祖・役行者によって開かれた修験の地として始まりました。中世・近世を経て、良質な「吉野杉」の産地として発達。その特性を知り尽くした職人による、樽丸などの伝統技術が継承されています。

平均標高は490m、渓谷型の山村です。村域の97%が林野で、川沿いのわずかな平地や山麓斜面に集落を形成。「森林の村」として林業振興に取り組むほか、山里型リゾート施設「黒滝・森物語村」は、山川のアクティビティを求める人々から、多くの支持を集めています。

Local resources in Kurotaki

地域に根差した資源

黒滝村 旧役場庁舎

明治時代の末に建てられて以来、70年あまり黒滝村役場として使われてきた建物。日本遺産にも登録されました。現在は民俗資料館として活用される、村のシンボル的存在です。

河分神社

黒滝川と川谷川の分岐に鎮座。古くから祈雨祈晴に霊験があると言われ、「宇迦之御魂神」を祀っています。秋の大祭では、17本の笙笛に合わせて地元の子どもたちが舞を奉納します。

鳳閣寺

678年、役行者が道場として開山し、895年に聖宝理源大師が建立したと伝わるお寺。1369年に再建され、国の重要文化財に指定される「石の廟塔」などの文化財が残されています。

黒滝・森物語村

黒滝川のほとり、豊かな自然の中にある、“遊ぶ”“食べる”“和む”をテーマにした山里型リゾート施設です。敷地内には宿泊施設「森の交流館」や温泉があります。

道の駅「吉野路 黒滝」

赤い屋根が目印の、観光案内所と休憩所を兼ねた総合案内センターです。良質な村産材を使用した施設内には、地元の野菜や加工品、木工品などが売られています。

赤岩渓谷

清流・黒滝川の川床から河岸一帯に、赤みを帯びた岩が連なる渓谷です。水に濡れた岩は特に赤色が鮮やか。春夏は木々の緑色との対比が美しく、秋は紅葉と相まった美景が現れます。

Local industries in Kurotaki

土地から生まれた産業

林業・木工業

新たな商品開発とブランド化で、林業振興に取り組んでいます。また、職人の手によって、樽丸、磨き丸太、水組、透彫など、伝統的な木工が今も続けられています。

観光業

リゾート施設「黒滝・森物語村」、道の駅「吉野路　黒滝」を中心に、広大な自然、歴史、食、アウトドアスポーツ、温泉などを楽しめる観光業が営まれています。

6次産業

地域の活力維持、雇用創出を目指して、食の6次産業化に着手。大和伝統野菜に認定された「黒滝白きゅうり」のブランド化と共に、販路拡大に取り組んでいます。

Information

交通｜路線バス、コミュニティバス
買物｜商店、コンビニ
病院｜診療所、歯科診療所
学校｜小学校1校、中学校1校
移住関連施設｜なし
移住相談窓口｜企画政策課（0747-62-2031）

気候｜山岳性気候。夏季は冷涼、冬季は寒さが厳しい。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪阿倍野橋駅」から「下市口駅」まで近鉄線で約1時間10分
・「下市口駅」からバスで「黒滝案内センター」まで約50分
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城IC」から国道309号を経て約55分

Tenkawa Village

13

天川村

Data　人口 1,266人（2023年1月時点）　面積 175.7km²

天川村は県の中南部に位置し、東部は「近畿の屋根」と言われる大峯山系が連なり、土地面積の1/4が「吉野熊野国立公園」に指定されています。約1300年前、役行者が「大峯山」を開山して以来、修験道の根本道場として栄え、行基、空海、円空といった高僧たちも絶えることなく参詣修行に訪れた地です。

気温は県北部の盆地より3〜5度ほど低く、平地も少ない山村です。村の入り口付近の「中央地区」、空海の伝承が残る「西部地区」は天ノ川沿いに集落が広がり、「洞川地区」には旅館や店舗が立ち並びます。毎年60万人が訪れる観光業、山林資源を活かした林業再生などを通じたまちづくりが進められています。

Local resources in Tenkawa

地域に根差した資源

八経ヶ岳

標高1,915m。別名「八剣山」とも呼ばれ、近畿・中国地方における最高峰です。トウヒなどの原生林に覆われ、6月下旬、「天女花」と言われるオオヤマレンゲの開花期は多くの登山客で賑わいます。

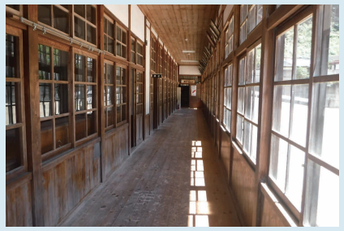
天河大辨財天社

「日本三大弁財天」の筆頭・大峯本宮とされる神社で、芸能の神様としても広く知られています。「能」に関係する資料が多数保存され、7月の例大祭や春秋の大祭には能楽奉納も行われています。

大峰山寺

約1300年前、役行者が開いたとされる「大峯山」の「山上ヶ岳」山頂にある、修験道の根本道場です。遺物の多さから「山の正倉院」とも呼ばれ、世界遺産および国の重要文化財に登録されています。

てんかわ天和の里



バーベキューやボルダリングなどができる体験施設です。平成14年に廃校となった旧小学校の建物を交流拠点として利活用。趣のある総檜造の校舎は、当時のままの姿で残されています。

みたらい渓谷

大小様々な滝、青緑色に輝く美しい淵、底まで透けて見える清流。四季折々の美しさは近畿地方随一の呼び声も。豊かな水が作り出す渓谷は多くの人の心を惹きつけます。

温浴施設

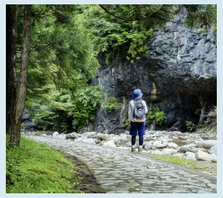
天川村にある3つの地区には、それぞれに「洞川温泉」「天の川温泉」「みずはの湯」という温浴施設があります。今もたくさんの修験者や観光客が、心身の疲れを癒しに訪れます。

Local industries in Tenkawa

土地から生まれた産業

林業

林内の放置間伐材を温泉の薪ボイラーに利用し、対価として地域振興券を発行。「バイオマス利用促進事業」などを通じて森林施業の活性化に取り組んでいます。



観光業

清流での魚釣り、登山、ハイキングにキャンプ、冬にはスキーも。大自然を活かしたアクティビティを提供するほか、たくさんの旅館や民宿などが営まれています。

製造業

1300年の歴史を持ち、腹痛・下痢・二日酔いに効く和漢薬「陀羅尼助」や、湧水を使った「名水豆腐」、昔ながらのかき餅など、様々な特産品が製造されています。

Information

交通｜路線バス、コミュニティバス
買物｜商店
病院｜診療所
学校｜義務教育学校1校
移住関連施設｜シェアオフィス西友
移住相談窓口｜地域政策課（0747-63-0321）

気候｜山岳性気候。夏季は冷涼、冬季は寒さが厳しい。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪阿倍野橋駅」から「下市口駅」まで近鉄線で約1時間10分
・「下市口駅」からバスで「天川川合」まで約55分
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城IC」から国道309号を経て約1時間5分

Nosegawa Village

14

野迫川村

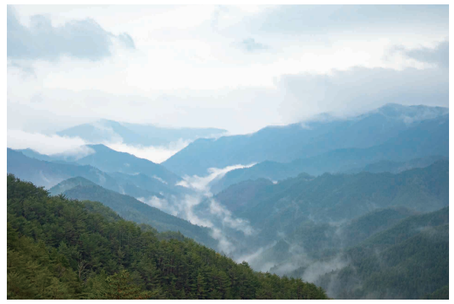
Data　人口 329人（2023年1月時点）　面積 154.9km²

※写真協力：奈良テレビ放送

県の西南端にあり、和歌山県に隣接しています。全域に渡って標高が高く、“雲海がよく見える村”としても有名です。村の北部には、信仰の地「高野山」があり、南には「高野龍神国定公園」の一部である「伯母子岳」や「護摩壇山」が連なっています。平維盛がこの地で生涯を終えたという伝承もあり、平家にまつわる逸話や歴史が今に伝えられています。

※写真協力：奈良テレビ放送

山間の村で平地はほとんどありません。点在する集落の多くは谷間の川に沿いながら斜面に張り付くように広がっていますが、一部、山の尾根筋に位置する集落もあります。夏は涼しく避暑地として知られており、冬の寒さは厳しく、その気候を活かした特産品が生産されています。



※写真協力：奈良テレビ放送

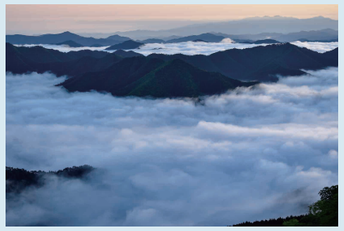
Local resources in Nosegawa

地域に根差した資源

荒神社

「日本三宝荒神」のひとつ。「荒神岳」山頂にあることから眺望もよく、全国から参拝者が訪れる神社です。弘法大師・空海が「高野山」を開く際に勧請したと言われています。

高野辻雲海景勝地



道路から雲海を見下ろせる絶景スポット。湿度が高く、十分な放射冷却があり、風がなく、朝と日中の気温差が大きいよく晴れた日の早朝、見渡す限りの雲海が出現します。

熊野参詣道 小辺路（こへち）

真言密教の総本山「高野山」と「熊野本宮」という二大聖地を最短距離で結ぶ、世界遺産の参詣道。石仏や地蔵、苔むした石塁、茶屋跡や屋敷跡など、古道の雰囲気を数多く残しています。

オコナイ

五穀豊穣を祈る伝統行事で、弓手原と北今西という地区のものが県の無形民俗文化財に指定。北今西では、この地区特有の儀式（カズラギリ、ウタヨミ、タテモチ、競り売り）が行われています。

平維盛の大祭

野迫川村で生涯を終えたとされる平維盛にちなんで行われる村の一大イベントです。平家の赤旗がはためく中、「野迫川夜叉太鼓」による太鼓演奏や、御霊祭、燈花会、花火大会などが行われます。

高野豆腐伝承館

幕末に始まった高野豆腐生産は、大正末期から昭和初期に全盛を誇り、130軒ほどの豆腐工場がありました。現在はこの施設で、伝統産業の「凍り豆腐」を生産し、豆腐作り体験も行っています。

Local products in Nosegawa

土地から生まれた特産品

※写真協力：奈良テレビ放送

そうめん

寒冷な気候と清らかな水を活かして作られる素麺は、コシが強く伸びにくいため、煮麺はもちろん、炒め物にもよく合います。

わさび

村の在来種の親株から自家採種し、「伯母子岳」の伏流水が流れ込むわさび田で育成。わさび田オーナー制度もあり。

あまご

県内で最大の養殖規模を誇る野迫川のあまご。採卵・孵化・稚魚・成魚・親魚に至るまで、村内で一貫して育てています。

しいたけ

完全無農薬、露地栽培のしいたけ。野迫川産の原木（主にコナラ）を使用して、限りなく自然に近い栽培方法で作られます。

Information

交通｜路線バス、コミュニティバス
買物｜商店
病院｜診療所
学校｜小学校1校、中学校1校
移住関連施設｜移住・定住促進施設「ぶなの森」
移住相談窓口｜産業課（0747-37-2101）

気候｜山岳性気候。夏季は冷涼、冬季は寒さが厳しい。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「なんば駅」から「高野山駅」まで南海線で約60分
・「高野山駅」からバスで「野迫川村役場前」まで約60分
（車の場合）
・京奈和自動車道「かつらぎ西IC」から国道480号を経て約1時間

Totsukawa Village

15

十津川村

Data　人口 2,960人（2023年1月時点）　面積 672.38km²

十津川村は奈良県の最南端に位置し、村としては日本一の面積を誇ります。古くから信仰の地であった高野山、熊野、吉野を結ぶ「小辺路」「大峯奥駈道」が通る地として知られ、今も多くの人が村を訪れています。幕末に活躍した「十津川郷士」の名は、自主・自立の精神を持つ十津川気質と共に知られています。

港や都に遠いことから「遠津川」「遠都川」などとも呼ばれてきた山深いこの村は、平地が少なく、また面積が非常に広く標高差もあるため、集落によって気温や天候も異なります。村の96%を占める山林を活かし山を守るための林業再生や、奥深い秘境だからこその大自然と共にある観光業で、村の活性化に取り組んでいます。

Local resources in Totsukawa

地域に根差した資源

世界遺産の道

真言密教の総本山「高野山」から「熊野本宮大社」に至る約72kmの祈りの道「小辺路」、吉野から熊野に至る約170kmの修験の道「大峯奥駈道」。共に世界遺産に登録されています。

谷瀬の吊り橋

村を縦断するように流れる十津川に架けられた、長さ297m、高さ54mの巨大吊り橋。昭和29年に集落の住民の力で架けられ、今も重要な生活道路として使われています。

玉置神社

創建は紀元前37年と伝えられる、「玉置山」の山頂付近に鎮座する神社。“熊野三山の奥の院”と言われ、境内には樹齢3千年とされる「神代杉」など巨木群がそびえています。

温泉

十津川村には泉質の異なる3つの天然温泉が湧き出ており、全温泉が、加温・加水・循環を行わない源泉かけ流し。その景観や優れた効能から、「国民保養温泉地」にも指定されています。

大踊り

小原・武蔵・西川の3地区でそれぞれ受け継がれる十津川村の「大踊り」は、300年以上の歴史を持ち、2022年にユネスコ無形文化遺産に登録。室町時代に流行した「風流踊り」がルーツと言われています。

瀞峡（どろきょう）

瀞峡は和歌山、三重、奈良の3県にまたがる大峡谷で、遊覧船も出ています。国の特別名勝に指定される巨岩・奇岩が連なる風景は、親しみを込めて「瀞八丁」と呼ばれています。

Local industries in Totsukawa

土地から生まれた産業

林業・製材業・木工業

「山を守ることは、山の民の責務」と考え、山づくりから製材、加工、販売までを一貫管理。より安全で効率的な林業の推進や都市部の消費者へのPR・販路開拓に取り組み、林業の6次産業化を進めています。また、「十津川村木工家具協議会」を中心に、村産材を使った家具や木工品を生産しています。

建設業

災害復興の工事などで多くの人が建設業に従事しています。

食品加工業

ゆうべし、きのこ、鮎など、自然の恵みを加工・販売しています。

観光業

温泉や景勝地などを活かした観光業が活発です。

Information

交通｜路線バス、村営バス
買物｜スーパー、商店
病院｜診療所
学校｜小学校2校、中学校1校、高等学校1校
移住関連施設｜田舎体験ハウス玉岡、こやすば
移住相談窓口｜企画観光課（0746-62-0001）

気候｜山岳性気候。海洋の影響を受ける十津川流域は温和な気候。標高が上がると気温が低くなる。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪難波駅」から「大和八木駅」まで近鉄線で約40分
・「大和八木駅」からバスで「十津川村役場」まで約4時間
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城IC」から国道168号を経て約1時間50分

Shimokitayama Village

16

下北山村

Data　人口 813人（2023年1月時点）　面積 133.5km²

県の南東部に位置し、南は和歌山県北山村、南東は三重県熊野市に接しています。西側の大峰山系には世界遺産にも登録される「大峯奥駈道」が走り、古来より多くの修験者が“霊場の奥座敷”であるこの村を訪れました。下北山スポーツ公園などアクティビティを楽しめるスポットも充実。2017年にはコワーキングスペース「BIYORI」も誕生しました。

山間の村でありながら全体的に空が広く、他の山間地に比べ温和な気候です。ほとんどの集落が道沿いにまとまっており、村内は車であれば約30分で一周することが可能。90%以上を山林が占めており、山林資源を活かした「自伐型林業」も推進しています。

コワーキングスペース「BIYORI」

Local resources in Shimokitayama

地域に根差した資源

前鬼の里

前鬼は、江戸時代まで修験の一大拠点だった集落。役行者の弟子だった前鬼・後鬼の子孫が住み継ぎ、修験者を助けてきました。現在も61代目の当主である五鬼助さんが宿坊を守っています。

池神社

標高370mの峰にある、天然の「明神池」を御神体とする神社で、天武天皇の時代、役行者によって開かれたとされています。以来、村人のほとんどが氏子となり、池と神社を大切に守っています。

下北山スポーツ公園

19万m²という広大な敷地の中に、キャンプ場やテニスコート、人工芝グラウンド、パターゴルフ、わんぱくランドなど、様々な施設がある公園です。宿泊施設や温泉も併設されています。

前鬼・不動七重の滝

「日本の滝百選」にも選ばれる、関西随一の名瀑で、修験者たちの秘密の行場だったと言われています。七段ある滝の総落差は約160m。大量の水が段々と流れ落ちていく姿は迫力満点です。

前鬼ブルー

上流部にダムのない前鬼川には、紀伊山地に降り注いだ豊かな雨が大地を通って直接流れ込んできます。その自然なままの青く透き通った水は、いつからか「前鬼ブルー」と呼ばれています。

池原ダム

池原ダムは、日本一を決めるトーナメントが開催されるほどのバス釣りのメッカ。人造湖としては近畿地方最大で、紀伊山地の地形により独特の湖岸線を描きます。

Local products in Shimokitayama

土地から生まれた特産品

下北春まな

白菜の仲間で、大和伝統野菜として登録されているこの村独自の品種。収穫期間が短く、村外に出回ることがほとんどないため、幻の野菜とも言われています。

南朝みそ

国産大豆と天然塩、下北山村産の米麹のみで作られた味噌。商品名は、南朝の遺臣がこの村に住み着いたと言われていることから付けられました。

ジャバラ

花粉症に効果が期待できる柑橘類。加工品も作られています。

あまご

村で養殖されたあまごは川魚の臭みがなく、全部食べられます。

お茶

化学肥料を使わずに育てた一番茶を手摘みして作られます。

木工品

村産の木材を使って、家具や杉箸、遊具が生産されています。

Information

交通 ｜ 路線バス、コミュニティバス
買物 ｜ 商店、コンビニ
病院 ｜ 診療所
学校 ｜ 義務教育学校1校
移住関連施設 ｜ 移住体験施設むらんち、コワーキングスペースBIYORI
移住相談窓口 ｜地域振興課（0746-86-0001）、空き家コンシェルジュ下北山事務所（07468-9-0992 / 営業時間：水～土 9:00～18:00）

気候 ｜ 山岳性気候。海洋の影響を受ける北山川流域は温和な気候であり、多雨地帯。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪阿倍野橋駅」から「大和上市駅」まで近鉄線で約1時間10分
・「大和上市駅」からバスで「池原」まで約2時間30分
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城IC」から国道169号を経て約2時間30分

Kamikitayama Village

17

上北山村

Data　人口 454人（2023年1月時点）　面積 274.22km²

日本百名山の「大台ヶ原」、世界遺産「大峯奥駈道」を有する上北山村は県の南東部に位置し、山に囲まれた環境を活かして、毎年秋に西日本最大級の勾配区間を誇るヒルクライムが行われています。全域が「ユネスコエコパーク」も登録され、絶滅が危惧される希少植物・シシンランが自生する最北の地とされています。

村域の97%が山林で、平地が少なく、北山川と小橡川に沿って「河合」「小橡」「白川」「西原」の4つの集落が点在します。また、旧ホテルの建物をリノベーションして新たな宿泊施設としてオープンするなど、ハイカーやサイクリストが来やすい村づくりに取り組んでいます。

Local resources in Kamikitayama

地域に根差した資源

大峯奥駈道

吉野と熊野を結ぶ80kmを修行道として役行者が開山した道で、2001年に世界遺産に登録されました。村内に18ヶ所の行場があり、中でも、「笙の窟」は冬籠の洞窟として有名です。

大台ヶ原

「吉野熊野国立公園」に指定される「大台ヶ原」の年間降水量は3,500mm。世界有数の湿潤な気候条件によって育まれる豊かな原生林には、全国からたくさんのハイカーが訪れています。

八日薬師の弓矢祭

毎年1月8日、「景徳寺」の裏庭で行われる「弓矢祭り」。この地に住みついた平家一門が再興を願い、練武を行っていたことから始まったと言われています。県指定の無形民俗文化財。

清流

大台山系に端を発する上北山村の渓流群。夏場になると多くの人が訪れ、透明な清流を楽しんでいます。村の中心部を流れる北山川や小橡川の上流は釣りのスポットとしても有名です。

滝

狭い峡谷の間を幾重にも落ちる「くらがり又谷の滝」、村内最大の水量を誇る「千尋滝」、村内最大の落差を持つ「中の滝」など、大台山系からの豊かな水が生み出す滝を各地で見ることができます。

星空

上北山村は別名「星と眠る村」と呼ばれるほど、星が美しく見える場所。特に「大台ヶ原」は、天体観測地としても知られ、4月下旬の山開きから11月下旬まで、満点の星空に出会えます。

Local products in Kamikitayama

土地から生まれた特産品

ゐざさ寿司

「大台ヶ原」に生える笹の葉をモチーフに、シャケの切り身とシャリを包んだ笹巻き寿司。「ゐざさ」は、笹をまとった大猪の神様「ゐざさ王」に由来します。

杉箸

薬品を使わず、吉野杉の端材で作る割り箸です。製作過程で出る木屑も、製品を乾かす燃料に活用。山の恵みをすべて活かすお箸です。

こんにゃく

国産こんにゃく芋を使用し、昔ながらの木灰汁でつくります。

アメノウオ（あまご）

北山川や小橡川の上流では、渓流の女王・あまごが釣れます。

栃餅

村産の栃の実と奈良県産の米で作る、日本遺産の無添加栃餅。

ジビエ

地元猟師が狩猟・加工して、ハムやウィンナーが作られています。

Information

交通｜路線バス、コミュニティバス
買物｜商店、コンビニ
病院｜診療所
学校｜義務教育学校1校
移住関連施設｜コワーキングスペースかわべのいえ（道の駅吉野路上北山2階）、上北山村移住定住体験住宅
移住相談窓口｜企画政策課（07468-2-0002）

気候｜山岳性気候。海洋の影響を受ける北山川流域は温和だが、標高が上がると気温が低くなる。多雨地帯。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪阿倍野橋駅」から「大和上市駅」まで近鉄線で約1時間10分
・「大和上市駅」からバスで「河合」まで約1時間30分
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城IC」から国道169号を経て約1時間40分

Kawakami Village

18

川上村

Data　人口 1,263人　（2023年1月時点）　面積 270.00km²

県の中南部にあり、東は三重県に接しています。紀伊水道に流れ込む吉野川（紀の川）の源流にある水源地の村で、約500年の歴史を持つ「吉野林業」発祥の地です。「吉野杉」は、美観、材質共に優れていることで知られています。観光施設としては、村の歴史と自然を学べる「森と水の源流館」や「ホテル杉の湯」などがあります。

土地面積の約95%が山林で、国道沿いの山裾に位置する集落と、国道から山に入った土地に点在するように集落があります。水源地の村として、水の恵みを下流に届けるための事業を実施。また、日用品の移動販売、高齢者の見守り、集落の点検などを行う社団法人を立ち上げ、山間地域での暮らしを支える活動も行われています。

Local resources in Kawakami

地域に根差した資源

吉野川源流-水源地の森

吉野川・紀の川源流の「三之公地区」には、500年以上も昔から手付かずの森が残されています。村はこの森の約740ヘクタールを買い取り、「吉野川源流-水源地の森」として守っています。

丹生川上神社上社（にうかわかみ）

675年、天武天皇期に創建された、水の神「高龗大神」を祀る神社。『延喜式』にもその名が記され、平安時代中期以降は「二十二社」のひとつに数えられました。

歴史の証人（下多古村有林）（しもたこ）

江戸時代初期に植林された、現存する日本最古の人工林のひとつ。面積約3,700m²の山肌に、樹齢260年～400年の杉・檜が林立。文化庁「ふるさと文化財の森」に県内で初めて選ばれています。

金剛寺の朝拝式

悲運の最期を遂げた南朝最後の皇子・自天王を偲び、毎年2月5日に遺品の兜（重要文化財）などを拝する朝拝式が行われています。500余年、一度も欠かさず行われている式典です。

御船の滝

高さ約50m、2段になって水が勢いよく流れ落ちる「御船の滝」は、冷え込みによっては、見事な氷瀑になることも。その姿は「文殊菩薩」を現すとも言われ、知恵を授ける滝として伝えられています。

匠の聚

様々なジャンルのアーティストたちがアトリエを構え、創作活動を行っている芸術家村。作品展示ギャラリーやカフェ、陶芸などのアート体験ができる工房や宿泊コテージも備えています。

Local industries in Kawakami

土地から生まれた産業

林業

木材の生産・搬出コストの低減を図ると共に、従事者たちの労働・生活環境の整備も進め、新たな需要を掘り起こすため、吉野優良材のプロモーションにも力を入れています。平成27年には、村と森林組合など村内にある4つの林業関係団体が連携し、「吉野かわかみ社中」を設立。川上産吉野材の生産から販売までの供給一貫体制の確立を推進しています。大滝集落の対岸には「吉野林業」を広めた「日本林業の父」土倉庄三郎の磨崖碑があります。

Information

交通｜路線バス、コミュニティバス
買物｜商店、移動スーパー
病院｜診療所
学校｜小学校1校、中学校1校
移住関連施設｜人知シェアハウス、おおずみ舎
移住相談窓口｜くらし定住課（0746-52-0111）

気候｜山岳性気候。夏季は冷涼、冬季は寒さが厳しい。

大阪からのアクセス｜
（電車の場合）
・「大阪阿倍野橋駅」から「大和上市駅」まで近鉄線で約1時間10分
・「大和上市駅」からバスで「湯盛温泉杉の湯」まで約30分
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城IC」から国道169号を経て約1時間

Higashiyoshino Village

19

東吉野村

Data　人口 1,577人（2023年1月時点）　面積 131.65km²

東吉野村は県の中東部に位置する山あいの村です。南北朝の時代には豪族・小川氏が治めた場所でした。明治維新の先駆けとなった「天誅組」に関わる歴史の地であり、“ニホンオオカミ最後の捕獲地”としても知られています。霊峰「高見山」への登山や、周囲の山々から注ぐ清流での川遊びなどを目的に、多くの観光客が訪れます。

村内を流れる3つの川沿いに集落が広がります。面積の96%が森林。平地は少なく、どの集落も山あいにあります。2014年に立案した「クリエイティブビレッジ構想」のもと、翌年コワーキングスペース「オフィスキャンプ東吉野」が誕生。多くの交流が生まれています。

オフィスキャンプ東吉野

Local resources in Higashiyoshino

地域に根差した資源

丹生川上神社中社（にうかわかみ）

675年、天武天皇期に創建された、水の神「罔象女神」を祀る神社。『延喜式』にもその名が記され、平安時代中期以降は「二十二社」のひとつにも数えられました。

七滝八壺

「七滝八壷」は、台高山脈・伊勢辻山を源とし、大又川に注ぐ7つの滝の総称です。平成20年に環境省「平成の名水百選」に選ばれ、奈良県の「やまとの水」にも選ばれています。

高見山

標高1,249m。古来より信仰の対象となった秀麗な山で「関西のマッターホルン」とも呼ばれています。四季を通じて登山客が訪れますが、特に冬の時期の霧氷が有名です。

夢淵

高見川・四郷川・日裏川という3つの川が合流し、常に水が流れ続ける深淵です。その昔、初代天皇とされる神武天皇が、大和平定のために戦勝祈願をした場所とも伝えられています。

小川祭り

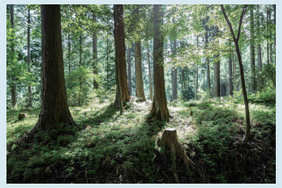
通称「喧嘩祭り」とも言われる、「丹生川上神社中社」の秋の大祭。毎年10月に斎行されます。村内にある8大字それぞれの太鼓台が境内に集まり、競い合う姿は迫力満点です。

ひよしのさとマルシェ

2017年にオープンした小さな道の駅です。店内では地元の新鮮な野菜やゆずの加工品、お菓子や木工品などを販売。農家所得や生産力向上、住民同士や、観光客との交流促進を目指しています。

Local industries in Higashiyoshino

土地から生まれた産業



林業

平成18年、「吉野中央森林組合」を設立。500年の歴史の中で育まれた確かな技術をもとに、管内森林の巡視、森林の施業計画の策定、森林の測量などの管理業務、間伐、枝打ち、植林、木材の伐採・搬出・販売、作業道開設工事など、山林の管理や整備事業を行っています。

観光業

村内には、複数のキャンプ場をはじめ、100年前の木造校舎を利活用した宿泊施設や民宿、旅館が経営されています。村営の温泉が2つあり、田舎のご飯が食べられる飲食店も複数あります。約千本の枝垂れ桜を見ることのできる新名所も。豊かな自然環境を活かした観光業が営まれています。

Information

交通 ｜ 路線バス、コミュニティバス
買物 ｜ 商店、コンビニ
病院 ｜ 個人医院
学校 ｜ 小学校1校、中学校1校
移住関連施設 ｜ オフィスキャンプ東吉野、ゲストハウス小川、シェアハウス鷲家A棟（旧梅本邸）、かめやKAMEYA、移住定住モデルハウス（小栗栖A棟）
移住相談窓口 ｜ 総務企画課（0746-42-0441）、かめやKAMEYA（0746-48-9016）※月～木のみ

気候 ｜ 内陸性気候。夏季は冷涼、冬季は寒さが厳しい。

大阪からのアクセス ｜
（電車の場合）
・「大阪難波駅」から「榛原駅」まで近鉄線で約1時間
・「榛原駅」からバスで「東吉野村役場前」まで約40分
（車の場合）
・南阪奈道路「葛城IC」から国道166号を経て約1時間